

地域再犯防止推進モデル事業の取組

1 概要

平成30年6月に、地方再犯防止推進計画の策定を含む本市の事業計画が国の「地域再犯防止推進モデル事業」に採択された。本市では、生きづらさを抱える若年女性を支援している「京都わかくさねっと（旧：若草プロジェクト in KYOTO）」が活動していることに加え、全国的にも珍しい女性専用の更生保護施設が存在するなど、女性に特化した再犯防止の推進に取り組む素地を有していることから、こうした特色をいかし、女性の支援を中心としたモデル事業の取組を行っている（事業期間は平成30年度～令和2年度の3年間）。

（イ）対象者が再犯（再度の非行）に至ってしまう主な理由について

「友人等から犯罪・非行行為に誘われる」、「仕事が長続きしない」、「悩みや困っていること等を相談する人がいない」、「薬物をやめられない」が多い。

（ウ）保護司として活動する中で、行政等に求めたい施策・取組について

「対象者に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）を作る」、「対象者への就労情報の提供」が多い。

(1) 実態調査の実施

ア 矯正施設に対するヒアリング調査

矯正施設（6箇所※）へのヒアリング調査を行い、犯罪・非行者の特徴、抱える課題、必要とされる支援等の情報を収集した。

※ 加古川刑務所、和歌山刑務所、京都少年鑑別所、交野女子学院、京都医療少年院、京都拘置所

＜聞き取り調査で得られた当事者の傾向等＞

- ・ 入所者の傾向を見ると、高齢者では窃盗が多く、若年者は薬物が多い。
- ・ 若年者は、SNSを介した人間関係に起因する非行が増えている。
- ・ 女性は、窃盗、薬物、傷害・暴行が多い。
- ・ 女性は、不良の成人男性と交際することによって急速に非行が進む傾向がある。
- ・ 男性は、窃盗、傷害・暴行、詐欺が多い。
- ・ 男性は、同レベルの非行集団をつくりがちで、段階的に非行が進む傾向がある。
- ・ 虐待被害の経験や依存症の課題があり「家に帰りたくない」という若年女性も多い。
- ・ 就労しても1回目で定着する人は少なく、2回目、3回目で定着する人が多い。
- ・ 協力雇用主の多くは土木・建設系の業種であり、女性はマッチング困難な場合が多い。
- ・ 関係機関の連携が不十分なところもあり、更なる相互理解・連携が必要。

イ 保護司に対するアンケート調査

本市域で犯罪をした人等の抱える悩み、課題や必要とされる支援等を把握するため、保護観察処分を受けた人に近接して支援を行っている保護司を対象としたアンケート調査を実施した。

なお、アンケートでは、モデル事業として実施する女性の支援を中心とした支援の取組を念頭に「少女・若年女性」と「その他の方」の2つの対象者に分けて行った。

アンケート調査の結果、「少女・若年女性」と「その他の方」とで大きな差異は認められず、主に以下の傾向がみられた。

＜アンケート調査で得られた主な傾向＞

（ア）対象者からよく聞く悩み、課題について

「仕事が長続きしない」、「仕事が見つからない」、「両親との仲が悪い」、「犯罪・非行をしたくないが、友人等から犯罪非行行為に誘われる」が多い。

(2) モデル支援の実施

令和元年度は、「京都わかくさねっと」と連携し、犯罪をした若年女性の当事者へのヒアリングを行い、犯罪・非行、再犯に至った背景・要因や必要とされる支援・施策等の分析に取り組んでいる。また、支援が必要な若年女性については、同意を得たうえで支援計画を作成し、相談や関係機関の紹介・随行等によって具体的な生活・就労等の支援につなげていく「寄り添い支援」を実施している。

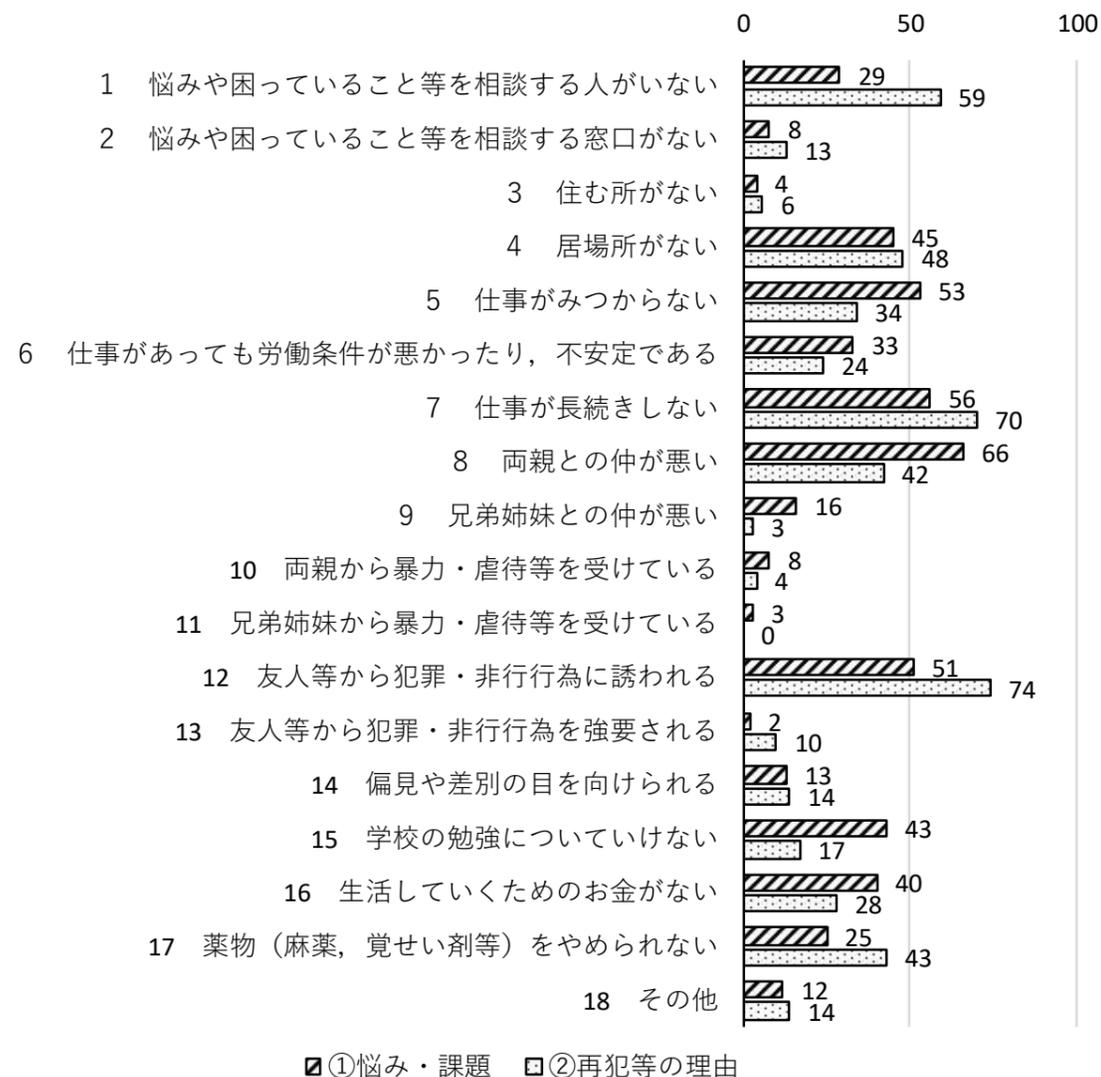
さらに、犯罪をした人等が施設出所後に困難や悩みを抱えた際に相談できる窓口や支援機関等を紹介したハンドブック「つなぐつながる」を作成し、矯正施設や保護観察の現場等において配布・紹介することにより、支援を必要する人を適切な支援先に『つなぐ』とともに、出所者等が困った場合にいつでも支援機関に『つながる』ことができるようにする取組を進めている。

令和2年度についても、実態調査やモデル支援を通じて明らかになった課題や求められる取組等を踏まえて、より効果的な支援事業を実施していく予定である。

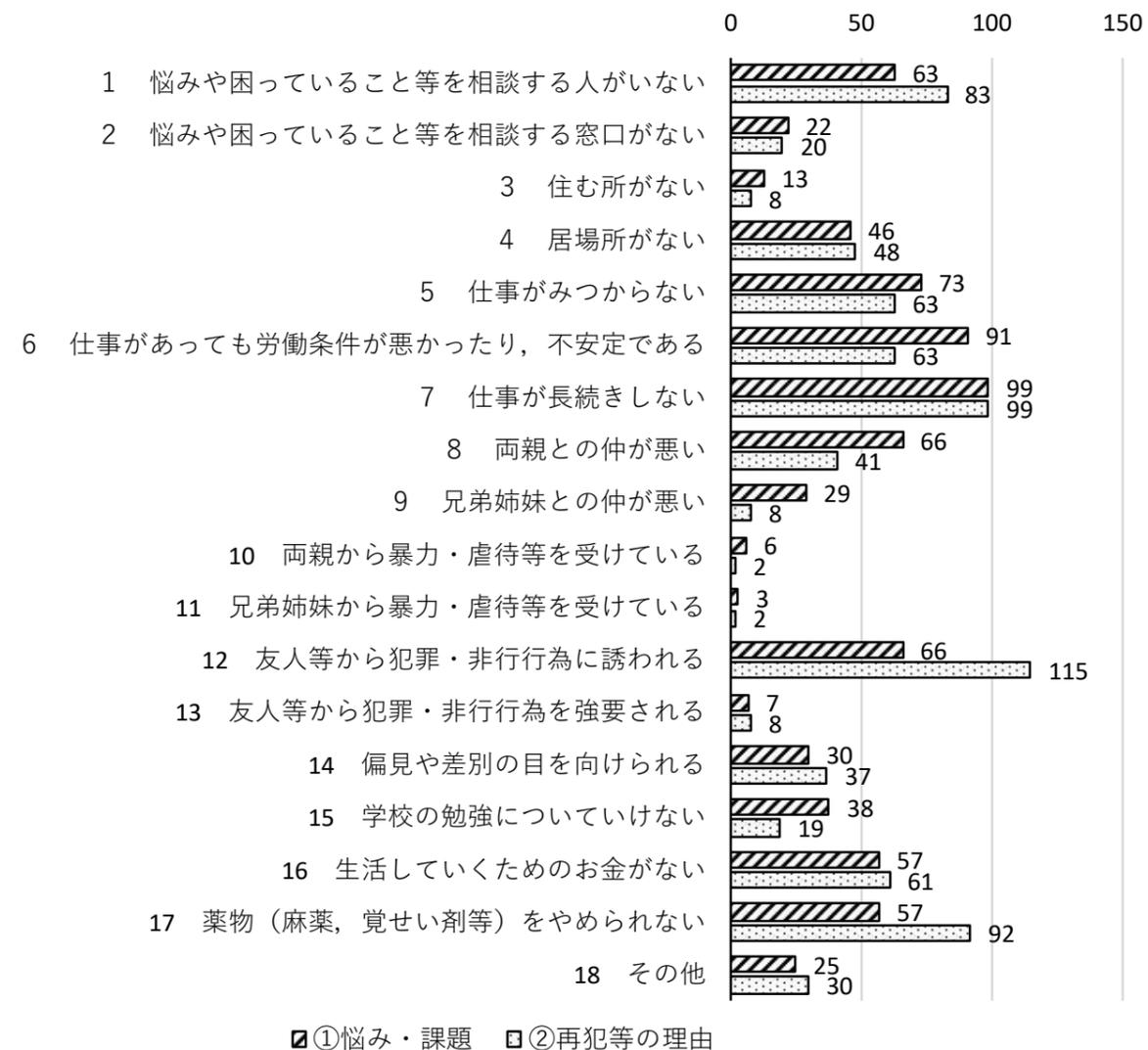
【保護司に対するアンケート調査の結果】

- ① 対象者からよく聞く悩み、課題は何ですか（3つまで回答可）
- ② 対象者が再犯（再度の非行）に至ってしまう主な理由は何だとお考え・お感じですか（3つまで回答可）

アンケート①②（少女・若年女性）



アンケート①②（その他の方）



- ③ 再犯防止のために行政等が実施するべきと考える施策・取組は何ですか。（2つまでで回答可）

